

4月21日～24日木津八木邸

展書
風遊

芽吹きとともに薫る風をかんじて

障がいを持った動かぬ体身から生み出される書には、創造性豊かな不思議なパワーがあります。白と黒の世界に凝縮された彼らの想いやよろこびがダイナミックに伝わってきます。春が過ぎ、草木が芽吹き薫る風をかんじて心自由に羽ばたく書の世界です。

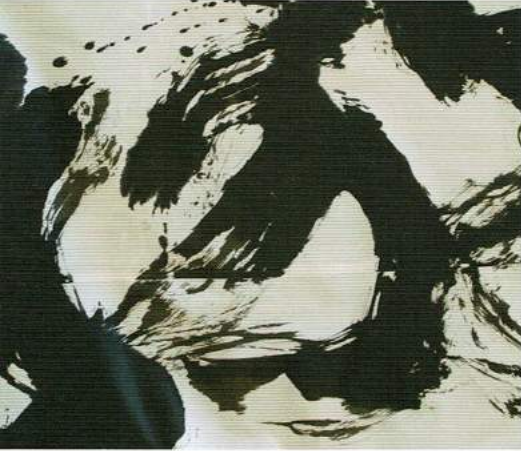
4月21日～24日木津八木邸

午前10時～午後4時

書展 風遊

芽吹きとともに薫る風をかんじて

今回の書展に向け、創作への想いを伝える言葉として書展風遊「薫風」と名付けました。桜が散り、次の季節に向かう四月はさまざまな草木の芽吹きの頃です。五月ともなると芽吹いた葉が大きく開き、その新緑の薫りをまとった風が心地よく吹き抜けます。明日に向かって薫る風のごとく、自由に木々の間を吹き渡りたい。作品展に込めた皆の想いです。



木津八木邸（米蔵）

木津川のほとりに大正時代に建てられた元廻船問屋の旧家・八木邸の米蔵があります。どっしりとした木と厚い土壁で覆われた蔵は、米だけでなく人々の営みや四季の移ろいを長い歲月包み込んで、今もなお堂々と建っています。今回の「風遊」書展はこの米蔵を中心に開かせていただきます。「風遊」のメンバーは身体は自由には動きませんが、生み出される書は既存の概念を超えた迫力と創造性があります。動かぬ身体ゆえに、書くことの喜びが書を通して感じられるのです。ダイナミックで迫力ある書と、様々なものを包み込んできた米蔵が、どのような表情を見せてくれるのか、主催する側にとっても新たな挑戦です。

書の創作集団「風遊」

書の創作集団「風遊」とは、奈良市在住の書家南明容のもと、障がいを持った人達が書の制作を行っている集団です。障がいをもった身体で必死に握りしめた筆からは、なぜか時に楽しく、時にダイナミックな書が生み出されてきます。体は不自由だけれど、書はまるで風のように自由に羽ばたいていきます。体は不自由だけれど、「風遊」とは、そんな彼らの「書」への想いを集約した言葉です。



八木邸 京都府木津川市木津町内垣外 105
JR 木津駅より徒歩 12分 (約1km)
お問合せ TEL 090-3355-1428 (南)